

7・8月の研修

研 修 名	開 催 日
○ 小学校英語活動支援員研修会	7月17日(木)
○ 諸検査実技研修会 ※ 講師は、大和田 浩先生 です。2日間かけてWISC Ⅲ検査、田中ビネーV検査の実 技研修を行います。	7月31日(木) 8月 1日(金)
○ 放射線教育研修会 ※ 放射線に関する講義、実 験、ワークショップを行いま す。	8月12日(火) [講師の都合に より変更になり ました。]
○ 学級経営研修会 ※ QUテスト結果の読み取りや その活かし方を研修します。来 年度まで1度は受講していただ く悉皆研修となります。	8月 8日(金) 8月20日(水) ※8日と20日 は同じ研修内容 です。
○ 算数数学学力向上研修会 ※ 県教育センターより講師を迎 え学力を高める具体的な手立て の指導を受けます。	8月 8日(金)
○ 小・中学校初任者研修会 (企業等体験研修)	8月13日(水) 8月14日(木) 8月15日(金)

実践センターだより



涼ヶ岡八幡神社 TK

第2号

研究校の紹介

大野小学校

大野小学校は、25年度から県小教
研より生活総合の指定を受けています。

研究テーマは、「学び合い、伝え合
いながら学びを高める子どもの育成 ～
子どもの見取りと教師の働きかけの有機的なつながりをもとに～」とし、今年度の主な研究内容を次のように設定しています。

特別支援教育及び支援員研修会より

第1回特別支援教育研修会(5/15)は、教育事務所の大和田浩指導主事の講話を中心に実施しました。読むこと書くことをつまづきの例とさまざまな具体的な手立てのあり方などの指導をいただきました。

第2回(6/13)は、支援員との合同研修会とし、大和田指導主事よりケース会議について話を頂いた後、グループを作り就学指導調査員の助言を受けながら、支援の必要な子どもたちとの接し方などについて情報交換を行いました。他校の様子や実例を出し合ったことにより有意義な研修会になりました。



求める子どもの姿

「ひと・もの・こと」とかかわって学ぶことで新たなものを見出す面白さを感じながら、その中で気づきや考えを相手に伝わるように話したり、進んで聞いたりして、気づきの質や学びの質を高めていくことができる子ども

研究の視点

視点(1) 目標や育てたい力を明確にした単元構想と指導計画の作成

手立て ア 育みたい資質や能力を明確にし、それらを育むための単元構想の作成
イ 体験活動や言語活動の必然性のある指導計画の作成

視点(2) 子どもの気づきや学びの質を高めるための教材の開発 (幼稚園との交流も含む)

手立て ア 様々な気づきや課題が生まれる地域素材の開発
イ 子どもの発展的な活動が期待される教材の開発
ウ 子どもの気づきや考えを整理したり高めたりするワークシートの形式や活用の工夫

視点(3) 子どもの見取りを生かした学び合いや伝え合いのある授業展開や指導の工夫

手立て ア 見取りを生かした、気づきや考えが生まれる課題提示や環境構成、発問の工夫
イ 見取りを生かした、課題意識や相手意識、目的意識をもたせる働きかけの工夫
ウ 見取りを生かした、学び合いや伝え合い場面での教師のコーディネートの工夫 (発問、発言のつなぎ、切り返し、板書、待つ姿勢等)

県大会
授業公開
10月16日(木)
2・4・6年

学校訪問始まる

教員の授業力の向上を図り、児童生徒一人一人に確かな学力を身につけさせることを目的として、平成 26 年度の学校訪問が、5 月 23 日には中村一中、6 月 3 日には山上小で行われました。年度の初めではありましたが、学習環境がよく整備され、子どもたちの話の聞き方もきちんとしており、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われていました。

すばらしい授業の中から、今回は子どもたちの興味関心を生かし、学習の意欲を高めた授業を紹介します。

1 本時のねらい

Is this(that)～? の疑問文とその応答の仕方を学び、ペアで質問したり答えたりすることができる。

2 学習過程

段階	学習活動・内容	形態	時間	教師の支援と 評価 (方法)
導	1 あいさつをし、クリスマスをする。 ・ Are you Mickey Mouse? ・ What's "nori" in English? ・ Do you have a ruler? など。	一斉	5	○英語であいさつをしたり、前時の学習を復習したりすることで英語学習の雰囲気づくりをする。
入	2 前時の学習のポイントを聞き、復習する。 (1) 前時の学習のポイントを聞く。 ・ 近くにあるものを説明するとき→This is ～. ・ 遠くにあるものを説明するとき→That is ～. (2) 相手にダンボールの中身を尋ねるには、なんと 言えばいいのか考える。	一斉	3 5	○前時には、文房具を用いてコミュニケーション活動したので、小道具を出しながら復習する。 ○Isがam, are と同じ意味であることに気づかせ、疑問文の作り方や答え方のヒントを与える。
	3 本時のめあてを把握する。 箱の中身は何!? 質問やその質問に対する答え方を学び、ペアで対話してみよう。	一斉	2	
	4 本時の学習のポイントを聞き、パターンプラクティスをする。			

(1) 本時の学習のポイントを聞く。

This is a mechanical pencil . (～です。)
 ↓
 Is this a mechanical pencil ? (～ですか?)
 Yes, it is.
 No, it's not. It's a ball point pen.

交換するだけ!!

(2) 口頭練習をする。

Is this(that) ～? { Yes, it is. / No, it's not.

(3) No, it's not. の場合の一文補足練習をする。

- 一斉 3 ○文法のポイントが視覚的に理解しやすいように、重要な部分はセンテンスカードを用いて説明する。
☆Is this(that)～?の疑問文の作り方とその応答の仕方を理解することができたか。(言語、文化/観察)
- 一斉 列 個人 5 ○集中して取り組めるように形態を変え、リズムカルに口頭練習させる。
- 一斉 2 ○相手の答えに応じてさらに一文つけ加えることで、より実践的なコミュニケーション

(詳しくはホームページで)



英語の学習の様子

